

大仏古墳群(児玉郡美里町)

だいぶつ

大仏二子塚古墳

正面の高まりが大仏二子塚古墳/前方後円墳/6世紀中葉から後半の築造らしい



後円部の墳頂に稲荷神社が祀られている/前方部はその奥



左手から



後円部の墳頂に登ってみよう





石祠の背後は木々が生い茂り、奥の前方部は見る事が出来ない



これは左手から奥の前方部方向を見たところで、こう見ると確かに前方後円墳であることが分かる



後円部墳頂から鳥居を見下ろしたところ



もう一度、退いて左手から見たところ/左手の白い家の背後が前方部



同じく右手から/茶色の家の背後に見える木々の部分が大仏二子塚古墳/右手が前方部



ここは永明寺墓地



この高まりが大仏13号墳/円墳/削られて墓地と化している



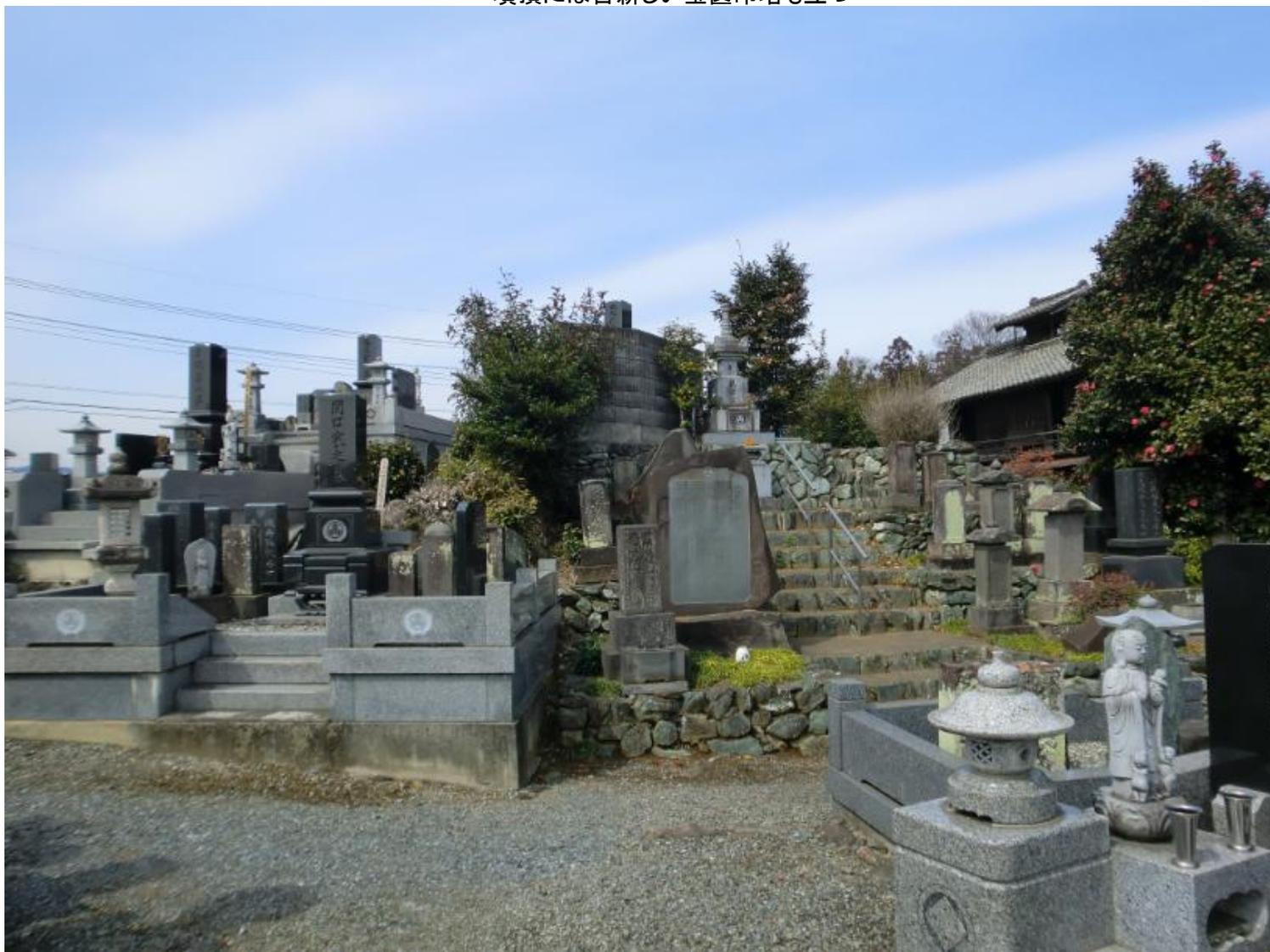
反時計回りに廻ってみる



石垣が積まれて、その上にお墓が立っている



墳頂には目新しい宝篋印塔も立つ



こんな感じ



さて、傍には正直地蔵尊が祀られていた



正直地藏尊の由来

今から八十数年程前のこと、大麻生村（現熊谷市）の庭師、新井久五郎氏（没年不詳）は、毎年、お盆前に、当山にやつて来て、数日間泊り込んで、庭の手入をする習いであった。そんなある晩、夢まぼろしともつかぬお地藏様が現われて、「私を正直地藏尊として祀ってくれるならば世の為、人の為に尽くすであらう。場所は当山墓地（現戸主高橋安雄氏）の片すみに居るから是非拾い上げて欲しい、」と言ったのであった。夜の明けのを待ちかねて、教えられた所へ行ってみると、昨夜のお告げの通り、小さなお地藏様が人待ち顔で半身土に埋すもれていた。びつくり仰天した久五郎氏は、早速寺に戻り、禅達和尚に、昨夜からの始終を話した。和尚は「何んとも思いはかること、出来ないこと」と直ちに、本堂におまつりし、近隣の寺院方を拝請し、ねんごろなる供養をして、その名を、正直地藏尊と呼ぶことにした。

平成七年十月

心鏡山 永明寺

これが正直地蔵尊



こんな石造物もあった



ここが永明寺



両サイドには六地藏尊





11号墳推定値

同じく永明寺墓地であるが、前方の辺りに大仏11号(円墳)があったようだ



この辺りであろうか



葺石なのか、石室の残骸なのか、石礫が散乱している



少し退いて見たところ/この他にも大仏9、10号墳(共に円墳)があったようだ



6号墳

正面の高まりが大仏6号墳/円墳



左手方向に廻ってみる/墳頂に石碑みたいなものが立っている



形は崩れているが、円墳の形が何となく感じられる



こんな感じ



No.326古墳

正面の高まりが大仏No.326古墳/円墳/背後は小学校の校庭



このように背後が小学校の校庭に跨っている



こんな感じ



その他

正面の高まりはNo.326古墳の西側にある古墳らしきもの



こんな感じ



右手から見たところ/墳頂に小祠が祀られている



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/misato_daibu0/

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/misato_daibu11/

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/misato_daibu6/

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/misato_daibu326/

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/misato_daibu14/

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/56_msto/daibuts1.html

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/56_msto/daibuts2.html

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/56_msto/daibuts3.html

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/56_msto/daibuts4.html

